

In the beginning there was the Word. (初めにことばありき)

1. Caught in the Web of Words(言葉に魅せられて)

英語の先祖であるインド・ヨーロッパ祖語では、名詞に、男・中・女の3つの「性」と、単・双・複の3つの「数」がありました。やっかいなのは、冠詞や形容詞など名詞以外の語が、名詞の性と数に一致することです。名詞の性と数に応じ、他の語は語形を変えなければなりません。動詞は、名詞の性と数に一致するだけでなく、「人称」によっても変化します。さらに、名詞自体が8つの「格」変化をするのです。

現代英語の名詞に性はなく、数も単・複の2つだけ。一致は、形容詞の this/these, that/those などに残るのみで、人称との一致を含めても、三単現のsとbe動詞に限られます。格変化は、所有格('s)と、人称代名詞・疑問代名詞の一部(I, my, me, who, whose, whom, etc.)にしか見られません。

フィンランド語は15の「格」を持ち、「母音調和」があります。また、アフリカのバントゥー諸語では、名詞の「性」(多すぎるため「クラス」と呼ぶ)が、スワヒリ語で14、ガンダ語では23もあります。「数」も、単・双・三・四・複の5つを持つものがあります。また多く(スワヒリ語は違う)が、中国語のような「声調言語」です。

英語しか知らずに不平を言うのがいかに浅はかであるか、世界の言語を知ることによって分かります。

2. Chasing the Sun(汲めども尽きぬ・広大無辺)

高校時代に聴いたNHKラジオ「ことばの十字路」が、私が日本語を志す直接のきっかけとなりました。森田良行先生が解説する「母だけに話す／母にだけ話す」「東に向く／東を向く」等の違いに魅了され、進学する大学は早稲田大学と決めました。もっとも、ロツテの小宮山悟投手と同じく二浪しなければなりませんでしたが。

高崎経済大学では、主として文章表現を講じています。今もって分からないことだらけですね。

見出しの典拠：『新約聖書』ヨハネによる福音書、1 邦題『ことばへの情熱』(三省堂)、2 邦題『辞書の世界史』(朝日出版社)



■日本語概説

■日本語研究

■文章表現Ⅰ・Ⅱ

■論文作法Ⅰ・Ⅱ

高松正毅
(たかまつ まさき)

専門は国語学・言語学。「日本語概説」「日本語研究」「文章表現Ⅰ・Ⅱ」「論文作法Ⅰ・Ⅱ」を担当。「新選組」と「白虎隊」を愛する。尊敬する人物は「榎本武揚」「土方歳三」ら多数。嫌いなものは「薩摩と長州」。誓いの言葉は「臥薪嘗胆」。入場テーマ曲：「アイ・オブ・ザ・タイガー(サバイバー)」&「ターミネーターのテーマ」。